

## 令和2年2月16日（日）協働のまちづくり活動支援事業報告会を開催しました！

### ■ 開催の主旨

市民と行政による協働のまちづくりを推進するため、NPO・市民活動団体等と市民の皆さんとの交流と地域コミュニティの再生や住民主体のまちづくりを考える機会として、市が支援した協働のまちづくり活動支援事業の成果発表となる平成31年度報告会を開催しました。

### 1 日時・場所

- 令和2年2月16日（日） 午後1時30分～3時40分
- 市民交流施設ぷらっと（江別市東野幌本町6番地の43）

### 2 プログラム

#### ●協働のまちづくり活動支援事業の事例報告

○報告団体（報告順）※カッコ内は連携団体

- ①市民活動団体メディネット江別（連携先：えべつ手話の会）
- ②子育て支援ワーカーズ きらきら（連携先：新栄自治会）
- ③えべつあそび場創造プロジェクト（連携先：しらかば自治会）
- ④語り・ひとり芝居ぐるーぷ うるうる亭
- ⑤生活クラブ江別（連携先：江別子どもの未来を考える会  
・こども支援ワーカーズ みんなのいえ）

#### ●事業報告会コメンテーター（左から、藤本氏、武田氏、田原氏）



- 藤本 直樹 氏（北海道情報大学 経営情報学部 先端経営学科 准教授）  
武田 正義 氏（江別市自治会連絡協議会 会長）  
田原 久美子 氏（江別市社会福祉協議会 副会長）

●各団体の事業報告及びコメンテーターの質疑・コメント（概要）

① 市民活動団体 メディネット江別  
（連携団体：えべつ手話の会）  
「手話啓発映像作成と市民活動団体のCM作成事業」



<事業報告内容>

私どもが取り組んだ内容は、手話啓発映像の作成と市民活動団体のコマーシャルの作成事業で、連携団体はえべつ手話の会である。本年度の活動内容は、手話入りビデオの作成がメインだが、江別百年記念 CD の「風はみどり」にクロマキー合成という技術を使い、手話映像を重ねて、一体化した映像を作成している。また、「生涯学習ら・ら・ら」に手話の提供として、QR コードを合わせて掲載した。こちらを読み取るとメディネット江別のホームページの手話動画にリンクする。「手話を学ぼう」という手話動画を、第4回まで掲載している。

次に、1分CMの作成事業として、Piece 地域健康づくりサポーターの1分CMを作った。こちらもQRコードを読み取ると、メディネット江別のホームページにリンクするようにしている。ホームページには全部で8本掲載している。この「風はみどり」の手話入り動画には、先程申し上げた通り、クロマキー技術を使い、合成した。灰色の壁面に移した映像を、そのままクロマキー合成すると、背景の部分が残ってしまう問題があった。これを改善するために、グリーンバックという緑色の背景で撮影したものを、クロマキー合成することで、あたかもそこにいるような映像に仕上げている。この技術を活用して映像を作成した。こちらが撮影の様子である。グリーンバックやライトスタンド等を設置する作業は、簡単にはできず、バックのセッティングやカメラ、ライトの準備をして、撮影ができるようになるまで40分ぐらい掛かる。これは手話映像を撮影している時の写真である。このようにえべつ手話の会の方を中心に、全部で8名が協力してくれた。それでは、「風はみどり」の手話入り動画を見ていただきたい。

- 「風はみどり」の手話入り動画上映 -

私どもとしては、良くできたのではないかと自負している。この映像はDVDにしたものを5枚、江別手話の会の方たちに差し上げており、これを活用してほしいと思っている。

【田原】

クロマキー合成をすることで、素晴らしい映像になり、背景も、江別の四季折々の風景ばかりだ

けではなく、イベントの様子も入れていただき、映像を見た方たちは、江別に生まれてよかった、住んでよかった、そして育て良かったと思う方々が多く出てくると思う。とても良い映像に仕上がったと思う。

これをYouTubeで上げられたということだが、例えば私のようにYouTubeを見られない高齢の方々に対して、DVDを作って発送するような考えはあるか。

【市民活動団体 メディネット江別】

現在、DVDは江別手話の会に5枚差し上げている。例えば、活動の中で、団体の啓発や指導等にも使えると思う。いろいろなイベントで使っていただけたらと思う。まだ予算が許せば、図書館等のさまざまな場所にも置けるのではないかと考えている。

【田原】

江別市も手話言語条例を制定し、市の職員の方々も研修やスキルアップのために勉強していると聞いている。手話の方々とともにコラボをして、次年度に向けて続けてほしい。

【藤本】

私から見ても技術的にとても高いレベルで、市民の方々へ向けて素晴らしい作品を作られたと感じた。この機会に作られた素晴らしい作品なので、ホームページはYouTubeにアップロードしていることは承知しているが、それを広めていくために、プロモーションやSEO等、広げていくための取り組みを予定しているか。

【市民活動団体 メディネット江別】

えべつ手話の会で、市のホームページに載せていただけないか動いている。先程言った、情報図書館にDVDを置くことは、私どもで進めていきたいと思っている。また、江別市民活動センターにも置いていただき、映像を流していただくことをお願いしようと思っている。

【藤本】

もう一点ご質問として、この事業は最大3年まで継続が可能だが、来年度も引き続き、えべつ手話の会等と連携しながら、継続して取り組みをするご予定があるか。

【市民活動団体 メディネット江別】

今年度はえべつ手話の会を主体で、江別の映像を使って制作したが、来年度はえべつ手話の会と相談して、各学校へ行き、5人~10人の方と一緒に手話をしていく事業に移せないかと思っている。そのためには、今回購入したグリーンバックでは難しいと思い、私どもで自腹を切って、3メートルから6メートルのグリーンバックを購入した。そして、来年度の活動については、その壁の前でやっていただくことを計画し、進めていこうと思っている。また、今年度は江別市長や市の職員の方々に参加していただいて、今のグリーンバックを利用して、江別の「風はみどり」を載せた手話をやっていただこうと思っていたが、市長も忙しくて実現できなかった。先程の映像の中には、福祉課の職員の方に参加していただいており、来年度は、えべつ手話の会だけではなく、手話に関係する方も参加していただき、事業を進めていきたいと考えている。

## 【会場】

今までのメディネット江別は、他の映像も制作していると聞いた。そうした中で、コメンテーターからも話があったように、市民にどこまで知らせているか。技術的には満足しているかもしれないが、市民には、ほとんど認知されていない。この点について、今後どうするのか。

## 【市民活動団体 メディネット江別】

メディネット江別はホームページを中心に活動している。そのため、なかなかホームページ以外の活動は難しくなっている。映像に関しても、どこでも流して良いわけではなく、例えば、江別市のホームページに連動していただければ良いのだが、そこまでできていない。以前、江別市にリンクしていただいたが、今はリンクが外れている。私どものメンバーの数のこともあり、なかなか細部まで行き渡っていない。

## 【藤本】

横から口を挟む形になるが、ご指摘いただいた趣旨については、私も賛同している。ただ、この事業を実施された団体だけが、これらを広めるために活動することは限界もあると思う。今後は、市あるいは事務局、また、私たちの方も含めて、どのように活動成果を皆様に広げていけるのか、どのような手段で、どのような団体組織が良いのか、どのように行ったらうまくいくのかも含めて、考えさせてほしい。

## ② 子育て支援ワーカーズ・きらきら

(連携先：新栄自治会)

「地域サロン きらきらカフェ e-たいむ (ebetsu eat enjoy eco)」



### <事業報告内容>

地域サロンe-たいむは、毎月第3水曜日、10時半から13時に錦町の新栄会館で開催した。今回の広報としては、前年度通り、毎週行っている親子ひろばへのご案内と団地に住む方からの提案で、各団地の出入り口掲示板にチラシを貼らせてもらい、正面玄関の引き戸には、写真付きのポスターを貼らせていただいている。その他に、今回は江別全域への参加に拡大するため、北海道新聞江別版での毎月掲載、公民館集会場等でのポスター・チラシの掲示、きらきらフェイスブックからのお

知らせ、親子ひろばでのチラシの配布、開催の2日前に全団地の方約150世帯へ手書きのチラシをポスティングし、開催時にはのぼり旗を掲げた。

地域サロン e-たいむとは、初めての方もいらっしゃるかと思うので少し説明する。「e」には江別の人が集まるの「ebetsu」、楽しむということで自分が楽しむ事はもちろん、楽しい場という意味の「enjoy」、食事をする事の「eat」、今年度も「e」の中に「eco」も加えて環境に配慮し、効率的なお料理方法や、資源の再利用で楽しむ事等を取り入れ、タイムには時間、時、時代の意味を含め、そんな良い時間を過ごしてほしいという気持ちをこめている。これらの事を大切にしながら、月に一度だけの e-たいむなのでスタッフ一同、真摯(しんし)に丁寧に地域サロンを開催してきた。時間ができた時に、ふらっと寄ってみたいくなるような、一人でも居心地の良い雰囲気をお心がけ、どなたでもどこに住んでいる方でもいらしていただけるサロンとなっている。

今年度も最初に年間スケジュールを決め、会館に予定表を貼っていただいた。予定表を見て、それに合わせて来てくれる方もいたので、年度初めに決めておくと皆様も目的をもって来場しやすいようだった。そのため、継続して早めに計画を立てていきたいと思っている。毎月の様子だが、暮らしに役立つ出前講座ということで、春には命についてしみじみと、しかし、心が温かくなるような看とりについての講座を聞いたり、夏にはおととしの地震を受けて、江別市危機対策・防災担当による防災の講座を開催、秋には昨年も好評だった旭川ガスによる、効率の良いガスの使い方、1月には同じく好評だった羊毛講座でモビールを作り、冬休み中だったので、ちびっこから小学生まで大人と子どもも合わせて45名の参加となり、大にぎわいになっていた。お正月前には恒例となっている、お祝い鶴をみんなで折って持ち帰った。また、手先と頭を使うような、紙で手軽に作れる数字合わせの脳トレゲームやフェルト遊び、大人向けのパズル等をした。スタンプカードの他に、ボランティアからの提案で、参加した方同士でお名前が分かった方が楽しいのではと思い、名札のご用意をした。お子さんにもかわいいアンパンマンシリーズで作り、大好評だった。

今年度で3回目となる11月23日に行った e-たいむまつりには、44組91名の参加があった。今回は江別市広報やまんまる新聞、直前に新栄自治会へ回覧板でチラシ200枚を配布し、その効果もあり、昨年度に比べて1.5倍近くの方々がいらした。当日そのチラシを持って「楽しそうなので来た。」と言う方もいた。くじ引きが楽しかった様子で、何度もくじ引きをしている姿も微笑ましいものだった。ちなみにこの方は結構なお歳のおじいさんだった。今年度も地域の学生ボランティア3名に参加していただき、そのうち一人は、前回は参加してくれた学生で、様子を理解してくれていて大変助かり、なにより再会が嬉しく思った。学生が入ることで雰囲気が明るくなり、子ども達とも遊んでくれると、ママ達からも好評だった。いつもの会場内では収まりきらず、今回は廊下も使ってと大変なにぎわいとなった。6月のプレゼンの時に名刺交換をさせていただいた、縄文太鼓の方にも来ていただき、すてきなパフォーマンスを披露してもらい、場を盛り上げていただいた。また、えべつあそび場創造プロジェクトの金子さんには、美味しいコーヒーをいれていただき、お互いの活動の幅を広げられるように、助け合う関係を作りたく、あそび場創造プロジェクトのひろばにも足を運び参考にしている。今後はお互いの足りないところを補える関係を築けていけたらと思っている。

e-たいむまつりのアンケートから、来場者より、「地域の皆様で協力して和気あいあいとしていて良いと思う。」「ご飯も美味しくて素晴らしい音楽も聞けて子ども達も楽しく遊んで最高だった。」との声をいただいた。また、学生ボランティアからも、「地域に根付いている感じが良かった。」「子ども達だけじゃなくスタッフ皆様も笑顔で良かった。」「お手伝いで参加の方よりお手伝いの方がい

っぱい居てつながりを感じいいなと思った。」「多世代で混ざっていて良かった。」「ひとつの場所に、みんなが集まっているのが良かった。」との感想をいただいた。開催日時と参加数は御覧の通り。現在 10 回開催し、延べ 130 組、176 名の親子が参加した。

今年度の事業は、まだ途中だが収支は次の通り。開催は残り 2 月 19 日と 3 月 18 日の 2 回となった。全て終了後、最終的に作成する。今回で 3 年間の協働まちづくり事業への参加は終わるが、3 年間で必要な備品関係は購入した。市民活動センターを通じて、いろいろな市民団体の参加があったり、市民講座等を利用したりと費用のかからない講座を取り入れることで、継続が可能な道も見えてきた。前回アドバイスいただいた、赤い羽根共同募金への申請も現在提出中。また、イオンタウンの黄色いレシートも申請しており、少しでも経費をまかなえるようにと思っている。

この事業の継続性と今後についてだが、今年度は昨年チラシを見て、参加してくれた方から、スタッフ側にも興味を持ってくれて、一緒にやってみたいと大変嬉しいお声があった。脳トレゲームやかわいい名札もその方のアイデアだった。そのような方との出会いがあり、今まで市販の袋菓子だったのが、サロンに参加してくれていたママがお菓子の販売資格を取得したため、コーヒーのお供となるクッキーの提供を引き受け、小さな子に食べさせても安心で安全な手作りクッキーを、みんなで楽しめた。そんな嬉しい出会いを楽しみに、まだまだ挑戦したいことが挙がってきている。全体の参加人数が大幅には増えているわけではないが、参加親子の数が多く、参加者が笑顔で居られること、私たちも楽しんでいる事が何よりかと思っている。また、最近お会いしていないと思った方も、しばらくぶりで足を運んでくれて、元気な姿でまたお会いできたりするのは大変嬉しい。これらの成果は、きらきらがきっかけを作ったにすぎず、参加者全員で作りあげているような雰囲気になりたいと思う。ボランティアの役割を明確にし、顔が見える関係を作り、子育て世代と子育て世代に縁のない人とをつなぎ、地域の活性化となる事を願い活動を続ける。新栄自治会の三浦さんからも一言をいただきたい。

#### 【新栄自治会】

本当に若い人たちが毎回、本当に素晴らしい企画を立ち上げており、私も月 1 回の e-たいむを楽しみにしている。また、今回も参加者が増えており、今年は新栄団地に住む子どもが 32 人増え、いろいろな母親達からの相談を受けている。大変なこともあるが、今のこの方たちと協力していこうと思っている。

#### 【藤本】

感想と提案が一つずつある。感想は、3 年間着実にいろいろなことに取り組んでいただいて、その参加者人数だけではなく、協働している相手や仲間、それから応援してくれる方も増えてきているようで、本当に江別のまちづくりの優良事例になるような取り組みだったのではないかと思い、感心して話をお聞きした。今後も継続していく予定とのことで、当然この事業の枠組みの中で、同じ目的や対象では、今後、この補助金は難しくなる。その時に、皆様にはそのノウハウや仲間が居て、いつでも運営できる状況に成長しているように思う。先ほど収支のデータを少し拝見したら、お金が掛かるのが食材費や交通費で、年間で最低でも 8 万前後掛かっているように見える。すてきな活動を応援してもらうために、今だとクラウドファンディングのような、皆様から少しずつ寄付を集めるような、資金調達の仕方や、またこの機会に集まっていたいただいた方々へ、クッキーや手作り品をバザーのような形で販売して、最低限で必要な事業費を捻出することも、少しずつ準備しながら、自律的な運営につながっていくと、もっとすてきな状況になるかと思う。クラウドファンデ

ィングの専門家ではないが、そのような収益確保のためのご相談であれば、また今後も気軽にご連絡いただければと思う。

【田原】

3年目になると、発表がとても力強く感じられた。前年度よりも広がりが大きく、近隣の方達も呼び込むために、宣伝していると思う。私は去年6月の公開プレゼンテーションの時に、地域の方々をもっと巻き添えにして、特に地域の高齢者に寄り添っていただくことを申し上げたのだが、先程の発表の中で高齢者の方も来てくれていることを知り、少し安心した。それで、どれくらいご高齢の方がいるか。また地域の方たちに向けて、開館時にパンフレットを貼る等して呼びかけしているようだが、個々の訪問はしているか。引きこもりのお年寄りの方へ向けて、お声を掛けているか。

【子育て支援ワーカーズ きらきら】

個別にお声を掛けてはいない。

【田原】

なかなか外へ出て来られない方へ、個別にお声を掛けたら良いかと思う。

【子育て支援ワーカーズ きらきら】

新栄自治会の三浦さんと、どのようにしてお声を掛けたら良いのか、常々話しているのだが、とても難しい問題で、現在も模索中。

【田原】

今後も継続するのであれば、先程、藤本先生がおっしゃったように、クラウドファンディングの利用方法もあり、お金はどこからでも調達できると思う。今後も継続してほしい。

【会場】

私は元江別本町の福祉事業で、地域食堂を開催している。先程話した、引きこもっている高齢者を外へ出すことはとても大変で、私たちが2年やっていて苦勞しており、簡単な事ではないのかと思っている。その中で私たちが力を入れているのは、高齢の方が高齢の方を誘って一緒に来てもらうこと。私たちが声を掛けていても、なかなか出て来られない方は、来ていただいた高齢の方に誘って来てもらっていることで増えている実情がある。私たちが呼び掛けなくても、協力して高齢の方に誘ってもらったり、民生委員に声を掛けてもらったりするほうが良いと実感している。

【会場】

今年は参加者も増えたとのことだが、私のほうから質問と提案がある。実際に、自治会や社会福祉協議会に活動を知らせているか。皆様の活躍をぜひ、自治会連合会や社会福祉協議会の会報に掲載してほしい。活動の末端まで見てきたので、そのような団体に掲載させてもらう工夫が出来ないか。今回もコメンテーターとして来ているので、ぜひ力を合わせて、市民に知らせる努力をしてほしい。

【子育て支援ワーカーズ きらきら】

ぜひ訴えかけていきたいと思う。

### ③ えべつあそび場創造プロジェクト

(連携先：しらかば自治会)

「地域にあそび場をつくろう」



#### <事業報告内容>

まず、あそび場創造プロジェクトの主たる活動であるあそびの会と、本年度の事業の簡単な説明から行う。地域に住む子どもたちにあそび場を提供している。毎月1回、日曜日にあそプロで登録しているあそび場施設で、あそびの会を開催している。本年度の新規事業だが、まずは自治会活動からの分離として、あそびの会の規模を拡大し、主に、しらかば自治会全域と、子どもを対象に実施している。しらかば自治会には、広報活動をしていただいた。次に、大人の休息の場づくりとして、コーヒーを飲みながら、くつろげるスペースを設けている。最後に地域施設と住民の交流として、自治会地域内にある蓮音という老人ホームを、あそび場として利用している。

あそびの会の実施状況と参加人数の実績はこちら。見ての通り、本年度の事業はまだ完了していないが、蓮音のあそびの会には2月9日時点で、延べ153名の参加があった。大人の人数が多いのは、施設の高齢者の方が遊びに来てくれるからであり、実際は子どもが友達同士で参加したりすることが多くなっている。来年度の準備としてあそび場を増やす活動も行っているが、既に、新栄台にある静苑ホームであそびの会を開催している。合計35名の参加があり、2つの施設を合計すると188名の参加になっている。本年度のあそびの会はあと3回残っているので、200名を超えるかと予想している。あそびの会の様子は、小学生から幼児、保護者も混じって人生ゲームをしたり、トランポリン、ミニ四駆、それから施設交流として縁日をやったり、みんなで指を使って絵を書いたりした。この絵はしらかば自治会の文化財にも指定した。クリスマスにはみんなでハンドベルの演奏会も行った。こちらは静苑ホームの様子。トミカは年齢性別問わず人気がある。また、リカちゃんのお世話をしている様子等、さまざまな遊びができるように、おもちゃを取りそろえている。

参加者からの声として、「日曜日に遊べる場所を探していた。」あそびの会は日曜日に子どもが遊べるような場所を作ろうと始めた事業なのでニーズに応えられていると実感している。「近所に遊べる場所があって良かった。」遊びに行くのにどこか遠くまで出かけるのではなく、歩いて来られる地域のあそび場として機能していると認識している。その一方で、このような意見もあった。「小



さな子どもでも遊べるものがほしい。」あそプロが所有しているおもちゃはほとんどが小学生向けで、乳幼児への対応もノウハウも少ないため、今後の課題となる。

本年度で参加者を募るために一番苦心したのが、周知と宣伝活動になる。まずは自治会会報誌へ掲載した。しらかば自治会の会報誌に、あそびの会の情報を掲載してもらったのだが、これを見ての参加者はおらず、今回は得られなかった。次に当日のお声がけをした。のぼり旗を持って、町内の子どもたちに声をかけて参加を募った。一定の効果が得られたのだが、大きな労力がかかってしまって効率的ではなかった。また、冬季は実施が困難だった。次はチラシを配布した。市内の人が訪れそうな施設に、チラシを掲載させてもらおうと、各所から参加者が見られるようになった。当初は、地域に重きを置いていたが、たくさん子ども達が一緒に遊んでいる姿を見て、厳密に地域を限定する必要ないと、考えを改めるようになった。次が回覧板、これは子ども達の参加だけではなく、高齢者の方からも、囲碁ができるなら参加してみたいと、お問い合わせいただけるようになった。地域交流の場を作るという目的を達成するための手段として、活用できていると実感している。その他として、えべつコラボニュースや助け合い通信にあそプロの活動内容を掲載していただいた。先週の静苑ホームの参加者に対して、何を見てあそびの会を知ったのか聞いてみた。その結果、回覧板やチラシ、ホームページ等さまざまであり、積極的な周知が動員につながっていると感じている。

次に大人の休息の場づくりについて報告する。まず、方針として非日常の提供をあげた。あそびの会に参加される保護者のため、コーヒーを提供している。サイフォンで入れたコーヒーをガラスのカップで提供し、コーヒー豆や角砂糖にもこだわっている雰囲気を出し、普段の家とは異なる特別な気分を味わってもらえるように工夫している。また、飲み物を有料化した。当初は無料提供にしていたが、自己負担を増やすことは好ましくないという選考委員のご指摘に従い、1杯50円に変更した。それで利用者から不満の声はなく、この方針変更は正解だった。有料化に伴いメニューを充実した。紅茶や日本茶の追加を図り、50円追加でラテも選べるようにしたが、これが大変好評を得ている。

最後に、交流の場として、保護者の方があそびの会に参加しても、子どもが気になってしまいがちになるので、積極的に声をかけてゲームに参加してもらい、参加者同士の打ち解けを促している。先程の写真にもあった通り、遊びや会話を楽しむ姿が見られ、息抜きになっていると感じている。また、子ども達にとっても一緒に遊ぶ相手が増えるメリットがある。

次に、地域住民の交流について報告する。あそびの会を通じて施設・住民に変化が現れたと感じている。地域への溶け込みとして、地域内にある謎の建物と思われていた蓮音は、あそびの会の宣伝活動をしているうちに、町内の住民から蓮音でやっているものと認知されるようになってくるなど住民の意識に変化が生じた。施設高齢者の楽しみに、あそびの会の参加が楽しみになり、子どもたちに「また来てね。」といった声をかける姿が見られるようになった。施設に入居される方は認知症になっていて、蓮音であそびの会というイベントを実施していることも、把握は困難だと聞いている。だが、時折、子どもたちが来ることはなんとなく理解できているようで、交流を楽しみにしてもらえているのなら、大変有意義な時間を提供できているのではないかと思う。

最後に施設の交流意欲化。自治会行事などの市民活動への参加といった、外の情報を取り入れよう、つながろうという意欲が見えるようになった。あそプロが行動のきっかけになれたと自負している。

ここで連携団体であるしらかば自治会から報告する。

### 【しらかば自治会】

私の自治会は、ここ4、5年の間に一気に200世帯が増えた。全体で1100世帯を超えている。増えた世帯はほとんどが若い方で、子どもと一緒に住んでいる方がほとんどである。その中で自治会としては、今までの会員は、自ら手を上げて、自治会の役員の担い手になってくれる人が居ないので、ぜひともこの200世帯の中から、少しでも自治会の会合に出席できるように、フォローしていきたいと思っている。そう思っている中で、このあそび場創造プロジェクトの親子の集まり、そこから親同士のつながりへと広がっているの、そこから自治会という地域のつながりになっていくことを願っている。自治会としては、まだ予算化はしていないが、そのような意見が強ければ、今後の予算化をしていきたいと考えている。

### 【えべつあそび場創造プロジェクト】

次に予算の執行状況について説明する。収入は、当初予定していなかったコーヒーの売り上げが若干増えたものの、支出がそれ以上に大きくなったので、自己負担額が増加している。支出のおもちゃの購入費として、文房具に思いの外、金額が掛かり、幼児向けのおもちゃも少し買い足したことで、予定より増えている。逆に、保険加入費は人単位ではなく、施設単位で加入することで大幅に圧縮された。コーヒー代は、メニュー充実と子どもに飲み物を用意したことで増えている。広告費は、紙を寄付していただいたが、代わりにのぼり旗を購入したので増えている。それ以外に飲み物等のメニュー充実に伴う機材の購入で、その他の金額も増えている。

今後に向けて、あそび場を増加していく予定である。先ほど報告した通り、蓮音の他に静苑ホームでもあそびの会を実施している。また、東野幌小学校の市有地の使用許可を、江別市から得ており、来年度から外遊びも出来るようになる。これはプレーパークのノウハウも取り入れられればと思うのでご協力をお願いしたい。

### 【藤本】

まず、一点お聞きしたいのは、今年度の1年目を活動で、手応えや反省等、来年度に改善していきたいことがあれば教えてほしい。

### 【えべつあそび場創造プロジェクト】

今後に向けて、規模を拡大していこうと考えていたが、そうではないことに気づいた。当初は1回のあそびの会に掛かる金額が、結構掛かるのではないかと想像しており、負担が大きくなることを、募金や集金活動をしていこうと考えていた。しかし、実際やってみると、実は、1回の開催に数百円で済みそうだと分かった。そのため、無理をして規模を拡大してお金集めをするのではなく、結構簡単にあそびの会ができることを広める事業としてやっていくのも良いのではないかと思い、方針変更をしたいと考えている。それに伴って、人やお金を増やすのではなく、誰でもできるという点から、スタッフも1人や2人でも十分だと分かった。その中で、今のメンバーの負担を減らすために、あそびの会の運営を、その施設にお任せしたいと考えている。今までのプレゼン資料を見てお気づきの方もいらっしゃると思うが、今日はあそびの会の開催日になっている。今日はメンバーが全員仕事もあり、忙しくて誰も出られないため、蓮音にお任せして開催してもらっている。こうすることで負担やお金も掛からずにあそび場ができることを進めたいと考えている。

### 【藤本】

私が所属している北海道情報大学には、地域連携産学連携センターという組織があり、今年度の4月からセンター長を拝命している。どうしてもかかりそうな消耗品は、地域活動を支援するために、例えばトナーやコート紙の提供はある程度の範囲で賄えると思うので、別途、後日相談してほしい。

#### 【田原】

昨年度からボランティアのメンバーが何人増えたのか、気にかけていたのだが、人数としては増えずに、逆に1名2名でもできるとのお話で、金子さんの熱意や情熱、強い思いが伝わってくる。それで、その気持ちはどこから出ているのか。今は、蓮音と新栄台の他に、野外活動も増やそうとすると、ますますメンバーが必要で、その中で個人負担をしていることに心配している。先程ご発表された場所にも、足を向かれたとおっしゃっていた。さまざまな交流をしているとは思いますが、その思いや、今後もメンバーを増やしながら広げていく方向は、考えていないのか。

#### 【えべつあそび場創造プロジェクト】

考えてはいる。例えば、今の蓮音でやっていることについても、こちらからはおもちゃ等を貸し出し、運営を全て任せてしまうことで、当日に行く必要はなく、次の開催場所へ行けるようになっている。これを繰り返していけば、私はやり方を教えるだけで、その後はあそび場を独自にやってもらい、そして、あそびの会の名前を使ってもらえれば、いろいろなところでやっていることを知り、参加者も行きやすくなると思う。負担は増やさず、薄く広く開催して行こうと思っている。私はこの活動が好きでやっており、それに対して負担だとは思っていない。また、実際に普段私が行っていることは、前日に荷物を持って置き、当日に開催して片付けて帰るだけ。その中で、私がしていることは、コーヒーをいれて、子どもと一緒に遊んでいるだけなので、そこまで負担とは思っていない。メンバーに関して、蓮音は活動メンバーが居るので、大丈夫なのだが、静苑ホームは、まだ活動できるメンバーが居ない。これから、追ってメンバーを集めて行かなければならないと思っている。ただ、そこはまだ2、3回しかやっていないところなので、来年度以降の課題になると考えている。

#### 【田原】

長く継続してやっていただくためには、なるべく個人の負担はなく、背負わないようにしていただいて、自治会の方にも早急に予算付けをお願いしてほしい。

#### 【会場】

現在、江別市の子育て支援課で、子育ての計画案を市民からパブリックコメントを求めているが、ご承知か。ぜひ皆様の体験を踏まえて、そのパブリックコメントに出していただく方が良いと思う。

#### 【えべつあそび場創造プロジェクト】

そのようなことがあることは存じていなかった。後ほど詳しくお話をお聞きし、参考にしたいと思う。

#### ④ 語り・ひとり芝居ぐるーぷ うるうる亭

「えべつ俄（にわか）」with 縄文太鼓（手鼓 太伸世流）」



##### <事業報告内容>

語り・ひとり芝居ぐるーぷ うるうる亭は、2010年に立ち上げた団体で、江別市文化協会の中では、演劇部門に属する団体で、語りや一人芝居の公演をしたり、研究をしたりするのが、本来の業務となっている。えべつ俄を立ち上げた理由に、2012年に江別市文化協会の土佐市の交流事業で、北原俄という団体が土佐市から来ていただいた。地域の演劇は長いこと課題にしており、これなら楽しい公演になると思い、えべつ俄を立ち上げた。実際に見ていただくのが一番だと思うが、例えば北原俄の場合は、政治批判や社会批判が主体になっており、日本の西側では演劇を使って社会批評する文化がある。その文化を北海道で取り入れることは大きな決断だった。私も長いこと演劇に携わっており、楽しめるように、あまり社会資源を使わず、子どもから大人、そしてお年寄りまで楽しめるようなことができないかと長いこと思っており、形にしてみたく、俄の芝居を始めてみた。

こちらが協働のまちづくり活動支援事業で制作した染め幕である。熊や鹿、鮭という江別を象徴する動物が描かれている。江別に住んでいると気が付かなかったりするが、江別は川の街で、鮭が遡上（そじょう）してくる。ご覧になった方もいると思うが、石狩大橋の上から見ると、鮭が登ってくるのをみてすごく驚いた記憶がある。鹿はわりと近くで走り抜けたり、野幌の奥の方まで行くと、走っていたりするのを見ることがある。しかし、熊はもともと居ないと長い事言われていたのだが、ついに昨年、野幌森林公園に熊が出て来た。この3種類の動物を登場させたのは、今年で8年目になるが、8年前から熊は居ないことを言われており、辛く思っていた。その中で、野幌森林公園に熊が出て来ており、出ないほうが良いとは思いますが、想像力が勝利して出てきた。そのため、3匹のお芝居にリアリティを持って、出来るようになった。

公演では黒子や拍子木が登場し、3頭の動物たちが出るスタイルを、北海道でやるのが格好いいのではないかと考えている。現在、昨年度で7作目になり、今年度は「令和が始まった！の巻」を公演した。来年度も内容は考えているが、題名は決まった。「えべつ俄版オリンピック話」にしようと思っている。俄の上映時間は15分から25分で構成しており、俄の団体としては、うるうる亭が北海道唯一の団体で、北原俄がわりと新しく、全国で18番目の団体だったが、私たちは、俄の上演団体として、全国で19番目の団体になっている。2017年2月から江別観光特使にも任命され、皆様の認知度も上がって来たかなと思っている。

そして、今回はやまびこ座で公演するために、この補助金をいただいた。やまびこ座というのは、こどもの劇場やまびこ座が札幌にあり、子どもに向けたお芝居を上演している。今回は、「えべつ俄（にわか）with 縄文太鼓」の公演を企画し、補助をいただいた。こちらが作成したチラシになっ

ている。やまびこ座の公演に、縄文太鼓のグループをゲストでお願いした。この染め幕のデザインと似たチラシになる。広告として、まんまる新聞に掲載した。このまんまる新聞を見て、いろんな人に来てもらったのではないかと思っている。次に、リーフレットも作成した。江別市長及び土佐市長からのコメントをいただいている。

こちらがやまびこ座の上演風景。このように、やまびこ座を選んで公演した理由に、今の江別市では、大人の認知度が上がり、高齢者施設でも、上演の機会を得ているのだが、できれば小学校や、それよりも下のお子様にも見ていただいたく、今回の企画を立ち上げた。これからも、できれば江別の小学校や幼稚園でも、この公演を見ていただければと思っている。

最後に、予算関係。一番大きい内容としては、やまびこ座ホールの使用料金が、予算よりも安く決算された。その理由として、私どもの団体がやまびこ座の支援団体になったからである。

#### 【藤本】

あまりにも楽しそうに報告しているので、時間を巻いた方が良いサインも送れずに拝聴していた。初年度の事業だが、もし来年度もこの事業の申請を考えている場合、今年と同じやり方、同じ中身で、同じようなお金の掛かり方を想定しているか。ちょっとした工夫をしたり、発展させたり、他の連携相手や協働相手を巻き込んでいくことを考えているのか、来年度の活動について何かイメージを持たれていたら教えてほしい。

#### 【語り・ひとり芝居グループ うるうる亭】

来年度は、こちらの協働のまちづくりでのご支援をいただく予定はない。実は、土佐市の方から呼ばれて行く予定があり、できれば、そちらから助成をいただく方がいいのかなと思っている。まだ具体的な予定が立っていないので、詳細は分からない。

#### 【藤本】

今年度の今回の活動において、札幌市のやまびこ座で公演したことで、手応えや江別のことをよく知っていただけた、あるいは、江別と札幌の関係が深まった等、取り組まれたことによる効果を感じたことがあれば、教えてほしい。

#### 【語り・ひとり芝居グループ うるうる亭】

当日、やまびこ座の受付でお金を精算していた。すると、近所の子どもたちがたくさん来てくれたのだが、やまびこ座の近所の子どもたちは非常に目が肥えている。私は、うるうる亭の格好をしてお面を被っていると、「鹿さん、鹿さん、大変だったね、良かったよ。」「お面をもう少し下に下げた方が良いと思うんだ。」「鹿さん、私、江別行ったことあるの。」という声や、「おじいちゃんがね、当別に住んでいるの。」という話をしてくれた。

私たちがやまびこ座で公演したかった理由に、やはり目の肥えた子どもたちがいて、その子どもに合わせた設備になっており、幕や袖幕一つにしても、きちんと作られている、優れた劇場になっている。そこで、照明や音響がある中で公演することは、来てくださった子ども達には、かなり効果があった。そのため、もし、やまびこ座で公演するのであれば、やはり、近隣に事前に知らせることを考えて、今後も続けたいと思っている。しかし、土佐市との話もどうなるのか分からないので、そこまで手が回るかどうか、分からない。

【田原】

去年のやまびこ座公演の予算を見たら、講演料、場所代が1万円という予算だったと思うが、今回の決算で3万円と載っている。これは2回公演している中で、昼と夜の1日の公演で、3万円ということだったのか。

【語り・ひとり芝居グループ うるうる亭】

決算は3万円ではない。予算額が3万円で決算が5,970円になっている。

【田原】

5 ページを見たら、やまびこ座ホールのお金として書かれていたので、分かった。また、札幌で上映し、87名の方がいらっしゃっているが、6月以降にチラシをまくとおっしゃっていた。地域としてはどこに配られたか。

【語り・ひとり芝居グループ うるうる亭】

江別中心とやまびこ座周辺、また、札幌で行われる演劇やコンサート等にもチラシを配った。

## ⑤ 生活クラブ江別

(連携先：江別子どもの未来を考える会・こども支援ワーカーズ みんなのいえ)

「えべつにもあったらいいな！ プレーパーク！」



<事業報告内容>

「江別にもあったらいいな！ プレーパーク！」の活動を報告する。まず、この会場に来られている方達の中にも、プレーパークという言葉聞いたことがない方もいると思う。私たちの活動は、子どものあそび場づくりに、重きを置いている。プレーパークという言葉は、もともとデンマーク発祥の冒険あそび場を、プレーパークと呼んでいる。大人が完成品として用意した、遊びや決まっている遊具、プログラムもなく、子どもたちが自由にやってみたいと思う気持ちを、実現できる場になるようにと思って活動をしている。

皆様の周りで、お子さんが元気に遊んでいる声を聞くことはあるか。子ども公園もたくさんあり、元気に遊べば良いと思っている、大人の方もたくさんいると思うが、この活動を始めたきっかけに

は、今の子どもたちにはあそび場がない。遊べる場所やあそび場に行っても、塾や習い事で忙しくて、一緒に遊べる仲間がいない。時間、仲間、空間というものが合致しないと子どもは遊べません。私たちは大人として、昔と違う子どもたちの取り巻く環境に課題を持ち、何か地域の中で、子ども達を見守る活動ができないかと思い始めた。

プレーパークは、地域の親が、周りの大人と一緒に、おおらかな目で子ども達を見守るという活動になっている。目的としては元気に遊ぶこと。今の公園は禁止事項が多くなっている。ボールや野球、大声とかかなり制約が多くなっている。穴を掘ることも出来なければ、木を揺らして遊ぶことも、木を傷つけているのではないかと、と言われてしまう。そのため、ほんの少しのおおらかな気持ちで、大自然豊かで遊ぶ子ども達を見守られればいいのだが、なかなかそうっていない、という現状がある。子どもたちは放課後がどんどんなくなっている。学校のカリキュラムも、すごく忙しくなっている。子どもの人数はどんどん減っているが、大人の目はさらに増えている。昔は見守りだったものが、今は監視のような社会になっている、という現状がある。子どもの様子を見て、何か悪いことをした時に、怒ることも大事だが、学校への通報も増えてしまうため、子どもたちが縮こまった遊びをしていることに課題を感じ、この活動をしている。プレーパークの中では、なるべく大人は見守りするが、口出しはしないことが鉄則。小さなすり傷や小さなけがは、大きな事故を防ぐことにつながることを合言葉に、みんなで見守る。その分大人同士は、大人同士で話し合い、そこで、大人同士もつながるような、あそび場を促すことが目的になっている。いつでも、誰でも、そして、大人も来られる。そこから、おしゃべりに花が咲いたり、子どもは子ども同士で少し大人の目がないところで、いたずらもしながら遊んだりする。これがプレーパークの概念になっている。プログラム化やイベント化にせず、日常の近くにランドセルを置いて、走っていけるような場に、大人もいるような、あそび場づくりができればいいなと思い、開催している。

1年目は、こういうプレーパークが必要で、子どもたちの忙しい現状や習い事の多い現状、学校が忙しい現状、さらに場所がないことを知ってもらうために活動し、講演会を多く開催した。2年目には、初めてプレーパークを開催してみた。今年は3年目で、2年目から少しステップアップして、広報にも力を入れて開催した。ただ、やっていく中で、開催しながらも、子どもが集っている時に、周りの大人に対して、子どものあそび場がとても大事だということも同時に伝えていかないと、子どもの声が騒音になってしまうことがある。子ども、保育園、そして幼稚園がうるさいと言われている現状がある。これは子どもたちの顔や現場を知らないと、笑い声や叫び声が、騒音になってしまう現状がある。プレーパークを開催しながらも、周りの大人たちにこの現状を伝えていくことの大切さも、とても感じ、今年度は講演会も辞めずに開催することにした。

今年は、季節を取り入れた遊びをするために、夏、秋、冬の3回実施した。人数は、初めておとしの夏に開催した時には15人で、そのうち子どもがたったの2人で、大雨の中で行い、見守りたい大人はたくさん来たのに、子どもの参加は少なかったのだが、今年の秋の開催時には100人以上の人が集い、とても元気に子どもたちの声も響き、大人も集まってくれた。理想的な形に近づいたことが、今年の開催の大きな特徴と感想である。また、秋の10月に開催する直前に、その公園のすぐ目の前の場所で、連動して講演会をすることもできたため、地域への発信にもつながったのではないと思う。3年目は、情報の出し方や連動のさせ方がうまくいったと思っている。

こちらが実際の様子。秋バージョンだが、夏バージョンは大人24名、子ども35名、スタッフ4名の合計59名だった。そして秋バージョンはスタッフが8名、犬が1匹、大人45人、子ども66人で、合計111名になり飛躍した。そして今週の土曜日には3回目の冬バージョンを西町公園で開

催する予定である。チラシを持ってきているので、ぜひ皆様にも後で興味のある方は持って行ってほしいと思う。このように、実は遊具の整備にお金をかけるのではなく、江別は自然が豊かなので、木の陰に隠れて遊び、木登りは子どもを高い所にあげるように、手助けすると落ちる原因で、自分の力で登れた所は、落ちることが少ない等、見守りの仕方を大人たちで共有しながら、子どもの遊びを眺めて見守った。西公園は桑の実がなっていて、子ども達は遊びながら、桑の実が美味しいということを知っていて、喉が乾いたから桑の実食べようと言って、みんなで桑の実を食べたりしながら、昭和の子どものような遊びというのは、今の子どもたちもできると実感した。

こちらが連動して行った講演会の様子。東京から、あそび場のプレーリーダーを呼び、プレーパークの必要性について学んだ。また、今年はこの活動が少しずつ広がり、展示ならできると言ってくれた団体もあり、学童の玄関に、子どもの遊びにはこういうものもあると、保護者の皆様に発信していただいたり、告知をしてくれたり、子どもの過ごし方について親御さんと話してくれたり、いろいろな活動に広がった。そして、私たちの活動が3年目のこともあり、公園の遊具だけにお金をかけずに、人員配置をしてくれると、どんな遊具がなくても、一人の大人が掛け声をかけて、遊びを促せることを市に要望も出した。また、プレーパークがまんまる新聞で取り上げられたことで、札幌からの来場者も多く、江別の良さを実感したと言って、帰られる親子の方もたくさんいた。のぼり旗だが、今日ここに2本だけ持って来た。私たちの開催自体にはお金は掛からない。しかし、この協働のまちづくり活動支援事業補助金をいただいたことで、公園でやっていることが、アピールができ、分かりやすくなった。地域の住民の方からも、そのような声をいただいている。なかなか公園遊びが展開しない中で、のぼり旗があると、子どもがたくさん遊んでくれる、というご近所の方の感想もいただき、軌道に乗って来ていると実感が湧いている。

#### 【藤本】

初年度の時には、どういう成長をしていけるのか、はっきりした確証を持たず、はっきりしないまま、お話を聞いていたが、昨年度の先進地視察等を踏まえて、参加者も増え、皆様のノウハウも高まってきたようで、どの事業もプレーパークのみならず、3年目を迎えると、皆様の活動がとてもしっかりと出来るようになってきている雰囲気が出た。確か昨年度の事業報告の時に、先進地の視察をして、公園管理者である行政や市との連携等、協力体制が重要だとのお話をいただいたと思うが、今年はそれが突破できたのか、要望という形式で終わったのか、分かる範囲で教えてほしい。

#### 【生活クラブ江別】

江別市とのコラボに関して、うまく行政とやり取りが突破していないが、江別の街は札幌のように大きくないので、要望を出した時に、プレーパークについてじっくり話を聞いていただき、実は副市長さんも札幌のプレーパークを見に行ってくれている。今も、孫育てをしているとのことで、このようなあそび場の必要性やスマホの問題、ゲームの問題等も全て絡んで来るとの話もいただき、この3年間の活動の中で、恐らく理解は深まっているのかと思っている。そして公園も毎回申請を出しに、市の公園係に行くため、その時に写真を見せ、このように公園を使いたいと、要望も出している。初めは木登りについて難色を示されたりした。しかし、行っているうちに見ていないところで、勝手に登っていたりしたら、仕方ないのかなと言ってくれたり、許可ではないが、少しずつ子どもの遊びに関して、市の方々も真剣になって、現状を考えてくださっていると感じている。た



だ、今すぐに制度を変えるところまでは至っていない。

【藤本】

来年度も活動を継続される予定か。

【生活クラブ江別】

もちろん続ける。

【藤本】

そうであれば、例えば広報広聴課を通じて、広報えべつの取材をしていただくと、自然に全市的な周知につながり、広報で情報を受け取った道新江別支局も、次回のときに取材させてほしい等、好循環が期待できるので、それも意識して、継続活動をお願いします。

【田原】

私も1年目の発表を聞き、これからどこに向かって行くのかなと思いながら、発表を聞いていた。少し不安に思っていた年だったのだが、3年目になると、このようにいろいろと夢を広げられて、素晴らしい活動につながっていると思い、感心して発表を聞いていた。今年3年目で事業の補助は終わりになるが、夢に向かって活動を続ける、と言って結ばれているので、より一層広く背伸びされ、活動を続けていっていただきたいと思う。この協働のまちづくり活動支援事業の例の一つとして、私は素晴らしい団体ではないかと思って今聞いていた。

【生活クラブ江別】

最後に、先程発表があった、あそプロの活動とは、協力し合いたいと同じような事を考えており、協働のまちづくり活動支援事業は、私たちは3年目で終わりだが、今年から始まった事業がまた一つあるので、うまく私たちが持っているノウハウややりたいことを、一緒にやっていけるように活動していきたいと考えている。

【会場】

私は大麻西町公園のすぐそばに住んでいて、今回の開催を眺めており、去年までの状態だったらどうなるのかなと思い見ていたが、今度は大変集まっているようで、少し安心をして見ていた。それから、もう少し開催時期に近い時に、例えば、西地区センターや大麻公民館等の周辺のところにも、きちんとお知らせを出していただき、のぼり旗を出しながら22日に開催することを期待している。

【生活クラブ江別】

今まで小学校や幼稚園、保育園にはたくさん持っていったが、近所にお知らせするところが弱かったと思ったので、公民館等にもあと1週間だがチラシを置くようにする。

【会場】

すごく共感できる活動だと思った。ただ、多く人を集めることだけが、成功ではないような気が

する。安全面と広場の大きさ等もあり、単純に集めることに集中してしまうと、私は発達障害の子たちを預かっていることもあり、やはりやりたいことができなかったり、もめ事が起きたり、危険やリスクが高くなったりする。そのため、このような場所を何カ所も開催して、仲間を増やしていくことも成功の一つではないのかなと思う。

#### 【会場】

私は子どもの頃から本ばかりを読んでいて、小学生の頃にはイタリア文学やピノキオ等を読んでいたが、悪い友達に誘われて、悪い遊びを教えたりするもの。経験ある方もいると思うが、お医者さんごっこやタバコ、飲酒、不純異性行為等は全て悪い友達に教わってしまうのではないかと心配をしている。昭和の子どもたちはそうだったと思うが、今の子どもたちはどうなのか。悪い子が居て、悪い遊びを教えたり、悪い影響を与えたりする。いい子ばかりではなく悪い子も居る。その点を答えてほしい。

#### 【生活クラブ江別】

江別市内の子ども達全員の状況を把握してはいないが、この活動に関わっている多くは、地域のお母さん達やPTA等で活躍しているお母さん達である。今の子ども達の課題や問題点はいろいろ話し合ったりしているが、今の子どもたちは、目に見える悪さをするよりも、ゲーム依存とかスマホ問題等で、トラブルに巻き込まれる子どもが非常に多くなっている。大人目から悪さやトラブルに巻き込まれる様子が、実は見えないことが課題ではないかと思っている。子ども同士のけんかや言い争いを、なかなか経験しない子どもが多いことが、私たちが常に話し合っている課題になっている。もちろん悪い子もいるかもしれないが、このあそび場を通して、失敗することも学びながら、失敗してもいいけれども、やり直しも効くことも、子どもたちの裏メッセージとして伝えていきたいと思っている。

### <コメンテーター総評>

#### 【田原 久美子 氏】

各団体、それぞれ1年間、計画したとおりに行ったとは言えないまでも90%くらいは達成出来たのではないかと思います。

今年の1年間を糧にして、継続される団体は今後も頑張ってください。

#### 【藤本 直樹 氏】

コメンテーターの立場として、きつめの意見を申し上げてはいるが、1年目よりは2年目、2年目よりは3年目、活動が継続されるにしたがって、皆に共感していただけるような素晴らしい活動成果につながってきているように思う。

それから、最後のプレーパークも、あそプロの方と連携していきたいということや、きらきらさんも縄文太鼓の方やあそプロとこの事業を通じて繋がりをもち、協働を行ったことは、この事業名

の通り、協働のまちづくりのきっかけになったことがコメンテーターとしてうれしく素敵なことだと思う。

江別の大学の教員になって6年ですが、それまで全道各地のまちづくりの都市計画に携わってきた。

札幌市のような大きい都市では、このような取り組みはなかなか実現が難しく、人口が4,5千人くらいのまちでは担い手がいないなどの課題があり、江別市のような規模で、江別市のような熱意のある市民が多いことで成り立つ仕組みかと思う。

来年度事業を継続される団体、別な形で事業を行っていく団体、様々かと思いますが、これからも頑張っていたきたい。